

# 《乳児版》 「遊び 学び 育つひろしまっ子！」育みシート

広島県教育委員会 乳幼児教育支援センター

このシートは、今、目の前にいる子供にどのような力が育まれようとしているのかを、子供の姿をもとに見取り、それによって、保育内容や環境構成をより良くするためにはどうすればよいのか、保育者同士が話し合い、子供理解を深めるためのものです。  
月齢や年齢はあくまでも目安であり、一人一人の発達の状況はそれぞれ違っていること、その子らしさを認めようとすることに留意する必要があります。



0か月～5か月

6か月～8か月

9か月

1歳児

2歳児

発達の特徴	運動機能が著しく発達し、身体的、心情的欲求を満たしてくれた人に対して親しみと信頼感を抱く	基本的な運動機能や指先の機能が発達し、自分でできることが増えてくる	自我が芽生え、自己主張することが多くなる
関わりのポイント	子供が喜びや楽しさ、安定感や安心感もてるよう、応答的なやりとりや言葉かけを心掛ける	安心して探索活動をしたり、伸び伸びと体を動かして遊んだりできるような環境構成を整える	「自分でやりたい」という思いや願いを尊重して、温かい気持ちで受容する

## 心地よい関わりの中でゆったりと過ごす

- ・おむつ交換や衣服の着脱など、大人の応答的な関わりによって、清潔になる心地よさを感じる

## 生活リズムが整い始める

- ・食事、睡眠時間などを、自分のリズムに合った安定した環境の中で過ごすことで、安心感をもつ

## 自分で食べようとする

- ・安心感をもつ中で、食べたいものを自分で手に取って、手づかみで食べることを楽しむ
- ・大人や周りの人のまねをして、スプーンやコップなどを使ってみようとする

## ゆったりとした雰囲気の中で食事を楽しむ

- ・自分の生活リズムやペースに応じた食事で、食べたい気持ちを尊重してもらいながら、食べることを楽しむ

## 1日の生活の流れに見通しをもつようになる

- ・身近な大人に励ましてもらったり、一部手伝ってもらったりしながら、食事、衣服の着脱、おもちゃの片付けなどの身の周りのことを自分でしようとする

### 健康

- ・食べ物の好き嫌いが始めるが、自分の好きなものは、進んで食べようとする

## 身体を動かす心地よさを感じる

- ・手足を動かす、頭を持ち上げる、動くものを見つめるなどの自分の行為を、大人に受容してもらうことで、身の周りの世界が広がる楽しさを味わう

## 人やものに反応して身体を動かす

- ・人やものの音、動きに合わせて、手足を動かして感情を表現する

## 自分の意思で体を動かす

- ・安心して自由に動ける環境の中で、ずりばい、四つ這いをして、興味がある方に向かっていき、やりたいことをやろうとする

## 自分の意思で移動することを喜ぶ

- ・つかまり立ちや、つたい歩き、手押し車などを使って、自分で動くことを楽しむ

- ・高い所に登ろうとしたり、障害物をまたいだりするなど、全身を使う動きに挑戦し始める



## あやしてもらおうと喜ぶ

- ・身近な大人に、親しみや愛着をもった関わりをしてもらうことで、嬉しさや楽しさを味わい、繰り返しの関わりを期待するようになる

## 体に触れられて喜ぶ

- ・あやし遊びや身体遊びなど、身近な大人の歌、リズム、声の抑揚に合わせて体を動かしたり、触れられたりすることで、喜びや楽しさを表現する

## 自我の芽生えと広がり

- ・自分がやりたいこと、やったことを身近な人に受容、共感してもらうことで、安心感や自己肯定感を得る

### 人間関係

- ・自分のことは自分でしたいという思いが強くなり、それが叶わなかった時には、泣いたり、癇癪を起こしたりする

## 特定の大人との関わりが築かれていく

- ・安心できる関係のもとで、身近な大人と一緒に過ごす喜びを感じる
- ・体の動き、表情、発声などを身近な大人に受け入れてもらうことで安心感を得る

## 特定の大人に愛着をもつ

- ・自分の思いを特定の大人に受容的、応答的に受け止めてもらうことで安心感を得る
- ・身近な大人に言葉かけや抱っこなどをしてもらうことで心地よさを感じる

## 周りの人に興味や関心を示す

- ・好きな人がいるところに自分から近づいていく
- ・いつも関わってくれている人には安心感をもち、見知らぬ人には不安や不快感を示す

## 満足感を味わう

- ・積み木を積み上げた時などに、「自分でできた」という表情を見せ、それを受容してもらうことで、繰り返しを楽しむ

### 環境

- ・自分で移動することで視界が広がり、人やものとの出会いが増えていくにつれ、探索活動が盛んになる

## 周りのものに興味や親しみをもつ

- ・体に触れたものを握ったり(原始反射)、確かめたりしながら感触に気付き、大人の共感的な言葉かけによって、周りのものに興味や親しみをもつ

## 周りのものや自然に興味や関心を示す

- ・興味や関心のあるものをつかんだり、叩いたりする中で、人やものへの関心や探求心を広げる
- ・大人と一緒に身近な自然の変化を感じる

## 身近な大人としぐさや表情を交わす

- ・身近な人と共に指差しをししながら同じものを見ることで、ものや事柄を認識するようになる
- ・大人の言うことのみねをし、耳にした言葉を遊びの中に取り込んだりして、自分も言葉を使うことを楽しむ

## 周りのものに関わろうとする

- ・身近な大人に見守られていることを確認しながら、興味や関心があるものの方へ自分から向かっていき、触れたり遊んだりする
- ・ゆったりとした雰囲気の中で絵本を読んでもらうことを喜ぶ

### 言葉

## 語彙が少しずつ増えてくる

- ・「バイバイ」「ちょうだい」など、生活に必要な言葉と行為が、少しずつ結びついていく

### 表現

- ・身近な大人に自分の思いや、やったことを代弁してもらうことで、声や言葉、身振りで伝えるようになる

## 感情表現の芽生え

- ・表情、泣き声、体の動き、喃語などを身近な大人に受け止められ、共感してもらうことで自分の欲求を伝えるようになる

## 素材の触感や感覚遊びを楽しむ

- ・おもちゃや自然の素材などに、保育者や友達と遊びながら触れ、砂、土、水などの感触を楽しむ

## 生活を再現する遊びを楽しむ

- ・身近な人がしていることを見てまねることを楽しむ

## 見立て、つもり遊びを楽しむ

- ・身の周りのものを何かに見立てて、イメージを膨らませて遊ぶ

## 身近な自然物に気付き、親しみをもつ

- ・保育者と共に様々な生き物や草花に出会い、見たり触ったりするなど、興味をもって関わる
- ・保育者の優しい問いかけや関わりの中で、自然や生き物も大切だと気付くようになる

## 身近なものの違いに気付く

- ・生活や遊びの中で色や形の違いに気付き、集めたり分けたりしながら遊ぶ
- ・保育者や友達とのやり取りの中で、食材や植物などに興味をもち、大きさや形、量の違いなどに気付く

## 思いや感情を言葉にする

- ・「これはなあに？」など、自分の興味や関心があるものやことについて尋ねる
- ・「嫌だ」「楽しい」などの感情を言葉や態度で伝える
- ・身近な人ややってほしいことや、自分でやりたいことなどの思いを受け止めてもらいながら、言葉や態度で表し、やり取りを楽しむ

## ごっこ遊びを楽しむ

- ・生活や遊びの中で、イメージをもちながら道具などを使い、周りの人と言葉のやり取りを楽しむ
- ・周りの大人と同じもので遊び、会話などをする中で、言葉の意味が分かるようになったり、言葉を使うことを楽しんだりする

## ものの触感や感覚遊びを楽しむ

- ・保育者や友達と砂、土、水、紙、粘土などの感触遊びを楽しみ、ものの変化や違いなどを面白がる
- ・自分の思いや感覚を保育者に共感してもらうことにより、音、形、手触り、動き、味、香りなどに気付いたり感じたりして楽しむ

健やかに伸び伸びと育つ

身近な人と気持ちが通じ合う

身近なものと関わり感性が育つ